



年 組 名前

道新でワークシート



たい まちよう 大樹町

十勝の大樹町に「北海道スペースポート」という航空宇宙施設があります。約50%、東京ディズニーランドほどの広い敷地にロケットの射場（打ち上げ設備）や滑走路などがあり、民間企業がロケットを打ち上げられる、アジア初の「宇宙港」です。大樹町での宇宙開発を、こども記者まなつくの2人が取材しました。

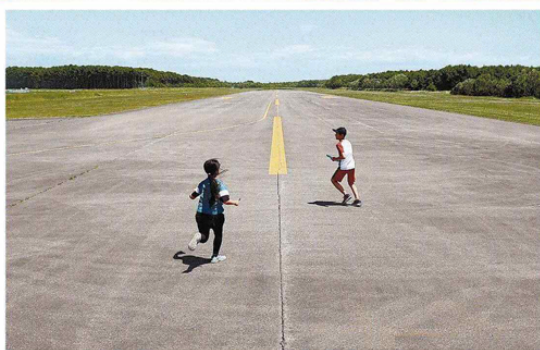
(帯広報道部 沼田 駿)

世界が注目！大樹の宇宙開発

「まなつく」は、まなつんの「まな」と、「行く・聞く書く」に由来する愛称です
こども記者 まなつく 見ぶん 録



① MOMOの模型を前に、ガイドの横山晋太郎さん（右）から説明を聞くまなつたち
② 「わあ、広い！」。全長1キロ、まっすぐな滑走路を駆ける、まなつたち（いずれも金本綾子さつえい）



観測ロケットにびっくり

北海道スペースポートは、太田交流センター「SORA」平洋が見える高台にあります。訪れたのは、芽室町・芽室西小6年の A さんと、帯広市・啓北小5年の B さん。ポートの運営会社「スペースポートの伊藤亮太さん（34）が案内してくれました。最初に、展示施設「大樹町宇宙港」

の宇宙空間に到達し、打ち上げ中に数分間、無重力状態になります。「宇宙に行く前、無重力実験が必要ときに役立ちます」と横山さん。Bさんは「これは何回使えますか」と質問。「1回きりしか使えません」との答えに、おどろいた様子でした。

日本の主力大型ロケットH2Aは、1回の打ち上げに100億円ほどかかります。「一方、この会社のロケットはエンジンや燃料タンクなど11の最小限のパーツで造られ、6千万〜7千万円。宇宙ビジネスに挑戦する企業が使いやすいよう、価格をおさえているのです。」

「ZEROは、衛星をのせて打ち上げるための強いエンジンを開発中です」と教えてくれました。
ところで、どうして大樹町に宇宙港があるのでしょうか。答えを知るため、まなつたちは、航空実験などで使う滑走路とロケットの射場を見学しました。
大樹町は東と南に海があります。風向きに合わせて打ち上げられ、とても都合がいいのです。「その上、一年中、晴れの日が多い。めずらしい宇宙港で、世界中から注目されています」と伊藤さん。「だれもが使える宇宙基地になれば、人が集まり、大樹町や十勝、北海道の発展につながります」と期待をこめました。



年 組 名前

道新で ワークシート

- ① 大樹町が北海道のどこにあるかを地図帳で調べましょう。

- ② 「宇宙（うちゅう）港」とはどのような意味（いみ）でしょうか。
記事（きじ）を参考（さんこう）にしながら考えましょう。

- ③ 大樹町がロケットの打ち上げに適（てき）しているのはなぜでしょうか。
理由を2つ書きましょう。